

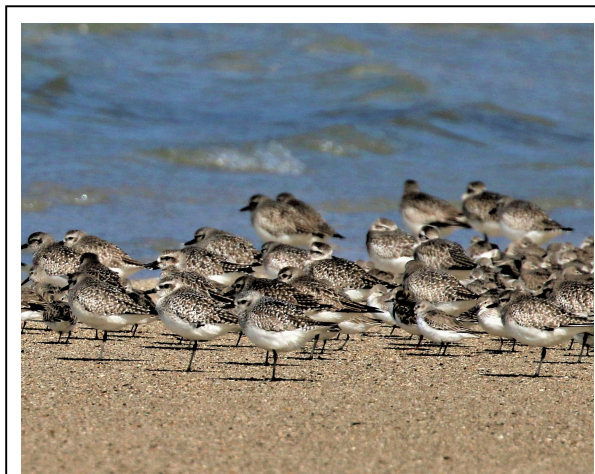
## ダイゼン *Pluvialis squatarola* の越冬群

### 【選定理由】

愛知県鳥類生息調査の結果では、毎年 200 羽以上の越冬が確認されていた調査地は庄内川河口と汐川河口のみであるが、庄内川河口では 1996 年 3 月、汐川河口では 1998 年 2 月を最後に 200 羽以上の記録が無くなった。2010 年以降の記録は庄内川河口で 100 羽程度以下、汐川河口では 50 羽程度以下にまで減少したことで、県内全域で越冬する全ての個体群が、愛知県の地域個体群と評価された。

### 【形態】

全長 27～31cm、翼開長 71～83cm。夏羽は、頭頂から後頸にかけて白色で黒色の斑が散在し、肩羽と雨覆および三列風切は黒褐色で白色の斑が数多くあり、顔から前頸、胸、腹にかけては黒色で、額から眉、側胸にかけて幅広い白色帯がある。冬羽は、頭および上面が褐色で白色の羽縁があり、顔から胸にかけては淡褐色で腹は白い。幼羽は冬羽に似るが、上面の羽縁および三列風切の白斑が明瞭。腰は白色で、尾羽に細い黒色の横帯が、脇に大きな黒色斑があり飛翔時の識別点となる。



愛知県西尾市, 2019 年 2 月 23 日, 高橋伸夫 撮影

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

冬期および春と秋の渡り時期に伊勢湾、三河湾沿岸の干潟および島嶼に生息する。

#### 【国内の分布】

春と秋の渡り時期に渡来し、本州中部以南で越冬する。

#### 【世界の分布】

ユーラシア北部から北アメリカ北部で繁殖し、ヨーロッパ、アフリカ、インド、東南アジア、オーストラリア、南北アメリカの海岸で越冬する。

### 【生息地の環境／生態的特性】

伊勢・三河湾沿岸部に残る干潟で越冬するが、干潟の中でも砂地の環境を好む。内陸へ飛来することはきわめて希で、主に干潟のゴカイ類、甲殻類、二枚貝などを捕食する。ピューイ、ピューイと澄んだ声で鳴く。

### 【現在の生息状況／減少の要因】

県内では藤前・庄内川河口、矢作川河口・一色干潟、三河湾の島嶼、汐川干潟、福江湾・伊川津干潟周辺で越冬するが、最も多い藤前・庄内川河口で 100 羽程度以下、他は全て 30～50 羽程度である。減少の要因は埋め立てによる干潟面積の減少と環境悪化、近年は県内全域で下水道が完備した結果、湾内に流入する水には河川の流量減少によりケイ素が、終末処理場から出る水には窒素やリンなどの栄養塩類が減少しており、湾内が貧栄養化して生物全体が減少していると考えられる。

### 【保全上の留意点】

工業排水や家庭排水、開発現場排水の中から化学物質や重金属、シルトなどを除去することは最も重要な排水管理である。しかし、本来河川から流入していた生物由来の有機物やそれらが分解されてできた栄養塩類、本来の河川流量であれば伏流水などで多量に供給されていたケイ素などの物質が少なくなれば、海や干潟の生態系は大きく崩れ、内湾に依存する水鳥は生息できなくなる。

### 【特記事項】

近年三河湾の島嶼での生息が確認され、その数も春先には 30～50 羽となるが、島には砂地が少ない。島では干潟でなく、潮の引いた岩場を中心に採餌をしているようである。

（高橋伸夫）